

令和5年度 倉敷市総合教育会議 会議録（要旨）

開催日時：令和6年2月8日（木）14時20分～15時20分

開催場所：教育委員室

構成員の出席者：難波弘志教育委員、沼本浩彰教育委員、江原雅江教育委員、
仁科康教育長、伊東香織倉敷市長

その他の出席者：教育委員会事務局職員

（司会）

これより令和5年度倉敷市総合教育会議を開催いたします。

私は、この会議の事務局を務めます企画財政局の渡邊と申します。よろしくお願ひします。

まず、構成員の皆様の出席状況でございますが、本日は大原教育委員が所用によりご欠席でございますので、ご報告申し上げます。

なお、本日、傍聴の方はおられません。

この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の規定に基づきまして、市長と教育委員会が協議・調整することにより、両者が教育政策の方向性を共有し、連携強化を図り、教育施策を推進していくこと等を目的として、平成27年度に設置されたものでございます。

なお、本会議は、直近では令和3年度・4年度と、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、中止となっており、今回3年ぶりの開催となっております。

それでは、開会にあたりまして、伊東市長からご挨拶を申し上げます。

（伊東市長）

今日はお忙しい中、倉敷市総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

日頃より教育委員の皆さま方には、それぞれのご知見をいただきまして、倉敷市の子どもたちのためにご尽力いただいておりますことに心から感謝を申し上げます。

真備の水害から5年半経過し、今年度でほとんどの事業が完了していく状況であります。一方で、令和2年の当初から新型コロナウイルスの影響により皆さん大変な状況でしたが、それをみんなで乗り切ってくれたと思います。

本日は、全国より評価いただいております、市内の全小中学校で取り組んでいる防災

教育の実施状況についても伺いたいと思っております。

今年の1月には能登の地震があり子どもたちも大変胸を痛めていると思います。輪島市、珠洲市の中学生が石川県南に集団移転した件について、倉敷市での集団疎開も参考に実施しているとのことで、倉敷市が他の自治体の防災対応の役に立っていると聞いて嬉しく思っております。

倉敷市の子どもたちが元気に倉敷市の将来を担い、また、社会に貢献できる From Kurashiki となるよう、委員の皆さま方の様々な観点からご意見をいただければと思っております。今日はよろしく申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。

まず、議題(1)の倉敷市教育大綱の取り組み状況について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

(教育委員会事務局)

説明 (1) 倉敷市教育大綱の取組状況について

- ・基本目標について
- ・倉敷市教育大綱の取組状況について

(司会)

ただいまの説明に関しまして、ご意見等ございましたらご発言をお願いします。

(伊東市長)

「困っているとき進んで助けます」とか「地域のことに関心をもって色々してみたい」と思う子どもさんの割合が非常に高く、また、学力について全国との差も段々縮まっていて全体的に良い傾向だと思う。その一方で、2時間以上もしくは3時間以上ゲームをする子どもの割合が高いと感じる。

(沼本委員)

この中には一般的なテレビゲームだけでなく、スマホ等のゲームも含んでおり、小学校、中学校のスマホ所有率が高いことも影響している。

(仁科教育長)

SNS 関係の講演で、スマホやゲームをしないと落ち着かないといった中毒症状のような状態になることもあると聞いた。

小学校に比べ中学校の方が割合が高い傾向にある。小学校から中学校に上がり、なぜ学習や勉強をするのか、現在も子どもたちに教えてはいるが、勉強の必要性をより重点的に、かつ、早いうちに納得してもらえよう指導する必要がある。

(難波委員)

テレビゲームだけでなく、YouTube 等を見ている子どもたちも多い。

(伊東市長)

テレビやゲームを長時間やるのは、学習の時間が短くなるだけでなく、視力低下等の悪影響が出る可能性がある。このことは学校で指導するべきではないかと思う。

(仁科教育長)

学校生活だけでなく、帰宅してからの生活についても指導しなければいけないと思う。

学習時間については伸ばして欲しいとは思いますが、今の時代は課題をたくさん出すのではなく、自主学習に重きを置くことになっている。

(難波委員)

子どもたちに聞くと、課題は短時間で終わるとのことなので、課題だけでなく、自主学習でもっと勉強して欲しいと思う。

(伊東市長)

自主学習やゲーム等の娯楽も必要だが、現状、学習時間が短いのであれば、まずは課題を出し、そこから子どもたちには学習の重要性を知ってもらえたらと思う。

(難波委員)

しっかり学習の重要性を理解してもらえよう全体で取り組んでいかないとはいけないと思う。

(沼本委員)

難しいことなのかもしれませんが、子どもたちに支給しているタブレットを活用してゲーム感覚で学習できるような仕組みができないだろうか。

(難波委員)

ある中学校では、ゲームのような感覚で学べるよう工夫した授業をしているところもある。

(伊東市長)

倉敷市立中庄小学校を見に行った際、英語の学習でデジタル教材を活用した授業をしていた。キャラクターが出てきたり、課題をクリアするとスタンプがもらえたりして、子どもたちは楽しそうに授業を受け、熱心に学習していた。学校でそういったものを導入して、ゲーム感覚でできるようになれば、学習の時間が増えるのではないか。

(仁科教育長)

特に算数・数学こそ反復で勉強することが大事。教員もそれを意識して、みんなが授業についてこられるよう取り組んでいるが、より一層、意識してもらうことが大事。

勉強や読書なども含め、本当に自分がやりたいことはあると思うので、時間の使い方についてしっかり考えてもらうようにしたい。

(伊東市長)

子どもたちが本当にやりたいこと、学びたいことを踏まえた内容のものを課題にして学習してもらうとか、タブレットを活用した学習ソフトもあるのではないか。現状を受けて、教育委員会に改善策等があれば聞きたい。

(教育委員会事務局)

倉敷市は授業でのタブレット活用について、全国の中で高い位置にある。一律にただ課題を多く出すと過度の負担を感じる子どもも出てくるので、今後もタブレットも活用しながら、子どもたちには一人ひとりの進度に応じた問題を解いていって、学力を伸ばしていくということも大切だと思う。

(伊東市長)

家庭での学習時間について、改善策等があれば聞きたい。

(教育委員会事務局)

タブレットを活用した学習について、学校で活用するだけでなく、家庭でも活用してもらえよう取り組んでいく。

(仁科教育長)

タブレットやゲームへの依存が昼夜逆転等に繋がることもある。そういったことも含めて、使い方は考えていかないといけない。

(難波委員)

習い事や部活動をしていると、すぐ夜になるので学習時間があまり残らない。家庭ごとの違いもあると思うので、一人ひとりに指導していかないと、昼夜逆転で不登校等に繋がったりもする。指導の仕方も考えていかないと。

(伊東市長)

学校の先生方のワークライフバランスも考えながら、課題の出し方や学習時間の伸ばし方について引き続き考えることが必要。

(司会)

それでは追加の議題になりますが、防災教育の概要につきまして、教育委員会事務局の方から説明をお願いします。

(教育委員会事務局)

説明 防災教育の概要について

(伊東市長)

防災食について、各学校には何食分あるのか。

(教育委員会事務局)

学校には児童1人につき1食分ある。また、防災備蓄保管庫に追加分がある。

(伊東市長)

長期間避難生活が続くことも見据え、防災食の数を増やすことも今後検討していかなければいけないと思う。

また、先程の説明で、正義感が強く、災害時には助けたいと思っている子どもたちが多いが、最後まで残ったら本人に危険が及ぶことについて心配する先生方がおられると。

(教育委員会事務局)

そのとおり。共助についてどこまで指導していくか悩む先生もいる。

(仁科教育長)

正義感が強い子どもが多いのは嬉しいこと。直接関係するかわからないが、倉敷こどもミーティングで「能登半島での地震を受けて、自分たちには何ができるかをテーマに考える」というものを予定している。これは、中学2年生の子どもが自分たちでテーマを考えて実現するもの。

ミーティングの議題としては、他所で災害が起こった際の自分たちにできることは、まず募金とかが出てくるが、それだけではなく、災害意識を高める取り組みを自らやっというもの。

今回のミーティングで話し合い、それを各学校でまた考えていくようになればいいと考えている。

(伊東市長)

災害等に対して自分たちで率先して考えて「こうやろう」という意見を出し合って、考えてもらえるのは素晴らしい。また、子どもたちが活動することができる環境が整っていることもいいことだと思う。

(司会)

時間の関係もございますので、「議題（2）働き方改革について」につきましては、本日の会議では割愛をさせていただこうかと思いますがご意見はございますか。

(難波委員)

では関連して少しだけ。「学校・教師が担う業務に係る3分類」は、よく分類されているなと思った。倉敷市には生徒指導支援員配置事業など様々な事業があるが、生徒一

人ひとりの問題や学級崩壊など、学校の先生だけではなかなか改善できていないこともある。そのために、ぜひ支援員を増やして欲しいので予算をかけて欲しいと思う。

もう一つ、発達障がいについて、療育が必要な子どもまたは検査して判断が必要な子どもが、約13～14%ぐらいいる。子どもの発達障がいを把握している親御さんは通院するなどしているが、自覚していない親御さんもいる。3歳児健診の段階で把握し療育すれば、小学校へ上がる前にはかなりの確率でよくなる場合があるので、健診だけでなく、相談窓口等もあることが望ましいと思う。

(司会)

ありがとうございます。その他何かご意見等ございましたらお願いします。

(江原委員)

教師の働き方改革やコミュニティスクールに関連して、学生を見ている者として実情をお話しすると、学生のボランティアが求められているが、経済的な事情等でバイト等に注力していて、学習に加えてボランティアまでとなるとできていない学生もいる。改善策を考えていきたいと思う。

(司会)

それでは、仁科教育長より閉会のご挨拶をお願いします。

(仁科教育長)

今日はお忙しいところありがとうございました。

伊東市長にも大変忙しい中、様々な面で教育行政に関してお力をいただいて、本当に感謝をいたしております。

今日いただいたご意見を色々と考え、学校としっかり連携をとりながら、子どもたちのために頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

ありがとうございました。

(司会)

以上をもちまして令和5年度倉敷総合教育会議を終了とさせていただきます。

本日はありがとうございました。